

ニュージーランドの 政策金利引き下げについて

ポイント① 政策金利を2.25%に引き下げ

3月10日、ニュージーランド準備銀行（中央銀行）は、政策金利であるオフィシャル・キャッシュ・レート（中央銀行）を0.25%引き下げ、2.25%とすることを決定しました。利下げは昨年12月以来、2会合ぶりとなります。ニュージーランドでは、中国の景気減速で主力の乳製品輸出が振るわず、国内経済の足かせになっていました。

昨年12月の利下げ時に、同中銀は緩和サイクルの打ち止めを示唆していました。このため市場参加者の大多数は、金利据え置きを予想しており、予想外の利下げとなりました。

ポイント② 追加緩和の必要性を示唆

今回の決定の背景には、インフレ率の低さがあります。10-12月期のインフレ率は前年同期比+0.1%と、同中銀の目標レンジの+1~+3%を下回っています。低インフレの要因として、原油価格が2014年半ばより大きく下落していることなどが挙げられます。

同中銀はこの日、90日物銀行手形金利が1-3月期の2.6%から10-12月期までに2.2%に低下し、来年半ばまでにさらに2.1%まで下がるの見通しを示しました。同金利見通しは政策金利の方向性を示唆します。経済成長を下支えし、インフレ率を2018年の早い時期までに目標レンジの中央である2%に戻すため、年内にあと1回の追加利下げを示唆しています。

ポイント③ NZドルは下落

3月10日午前9時頃の東京外国為替市場では、NZドルは対米ドルで前日比2.3%程度、対円で同1.5%程度のNZドル安となっています。予想外の利下げ発表を受け、NZドルは急落する格好となりました。

但し、欧州や日本がマイナス金利を導入する中、ニュージーランドは相対的に高い金利水準にあり、今後、NZドルの下支え要因になると思われます。

重要
イベント

3月17日	GDP(10-12月期)
4月18日	CPI(1-3月期)
4月28日	金融政策発表

図1：政策金利の推移

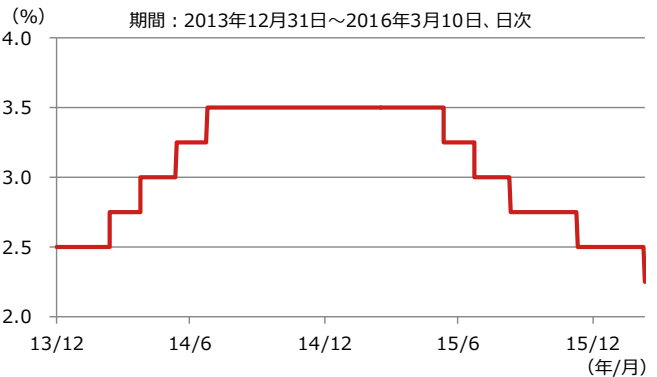


図2：消費者物価指数（前年同期比）の推移

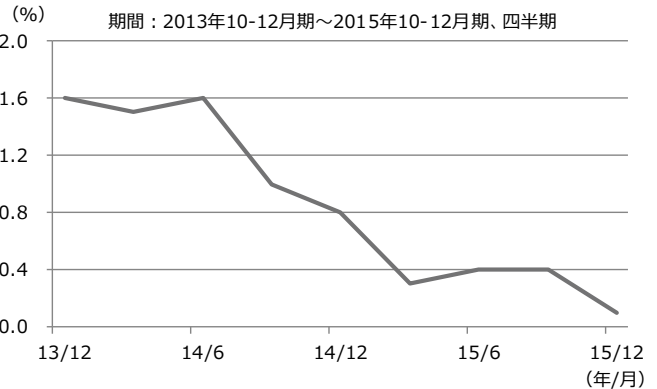
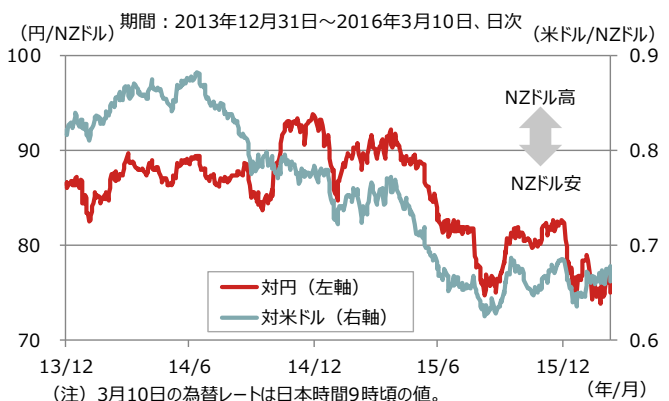


図3：為替レートの推移



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。